

社会保障の教育推進に関する検討会報告書（概要）

社会保障に関する教育の現状

- 社会保障の授業に使える授業時間数は3年間で2コマもしくは3コマ程度
- 制度の説明に偏ってしまい、考えさせる授業の展開が難しい
- ほとんどの生徒は社会保障に対して、関心がないもしくは興味がない
- 教師も詳しく知らない場合が多い

検討の視点

- 限られた授業時間の中で重点的に教えるべき項目を整理する
- 生徒の当事者意識を引き出し、学習のモチベーションを高める工夫をする
- 教師の指導のしやすさ等に配慮した工夫をする

「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目」とそれを理解するための教材

重点とすべき学習項目

- 社会保障の理念 … 「なぜ社会保障制度が誕生し現在存在するのか」を理解する
- 社会保障の内容 … 「社会保障制度がどのような役割を果たしているのか」を理解する
- 社会保障の課題 … 「課題」を考察し、多面的・多角的に社会を理解する

「重点とすべき学習項目」を基に教材を作成

重点とすべき学習項目のための教材

- 「理念・内容・課題」を生徒に理解してもらうための教材（テキスト）

学習のモチベーションを高める映像教材

- 生徒の当事者意識を引き出し、学習のモチベーションを高める
- 教師の授業展開の充実にも寄与

生徒と教師が理解を深める副教材（ワークシート）

- 生徒が自ら主体的に考え、自分の考えをまとめ、理解を深める
- 教師の指導しやすさを高める

社会保障の教育推進に関する検討会の「提言」

①学習指導要領改訂に向けて

「理念・内容・課題」を重点的に教えるべきという方向性が、中央教育審議会において議論されるよう提言

②教科書会社への情報提供

現行の教科書に、本検討会の方向性が盛り込まれるよう、教科書会社への情報提供を提言

③教師向け講習等の実施

当検討会で作成した教材を教師向けに周知するとともに、作成意図を正しく理解してもらうための講習等の実施を提言

④学習時間の確保

公民科と家庭科の関連を図ること、総合的な学習の時間を活用することを提言